第 29 回　公立大学法人神戸市外国語大学評価委員会　議事要旨

１　日　時　　令和 4 年 4 月 28 日（木）15：00～16：30

２　場　所　　三宮研修センター705 会議室

３　出席者

○委　員　　三成美保委員長、伊藤恭子委員、岡田豊基委員、嘉納未來委員
　　吉井昌彦委員、松井謙二委員、巳波弘佳委員

○事務局（企画調整局）辻局長、平川課長ほか

○神戸市外国語大学　武田理事長、田中副理事長、棱野理事、田村理事、北見理事ほか

○神戸市立工業高等専門学校　末永校長、道平校長補佐ほか

４　議　事

議題１　第３期中期目標の変更について

令和５年４月に神戸市外国語大学と神戸市立工業高等専門学校は同一法人下での運営を開始するに際し、公立大学法人神戸市外国語大学の第３期中期目標・中期計画に、神戸市立高等専門学校の項目等を新たに加える必要があるため、以下の３点を基本的な考え方として変更案を作成した。

①同一法人下での運営に合わせ、構成を「法人に関する事項」と「設置する教育機関の目標」に分け、「設置する教育機関の目標」に「神戸市立工業高等専門学校に関する目標」を追加。

②「法人に関する事項」、「神戸市外国語大学に関する目標」について、現在の第３期中期目標（H31.4～R7.3）を踏襲しつつ、同一法人下での運営に際し第３期中期目標期間で取り込むべき内容について項目等修正・追加。

③「神戸市立工業高等専門学校に関する目標」について、あり方検討委員会での最終報告内容を踏まえた目標を追加設定。

（主な質疑）

第３期中期目標の変更について

（委員）説明いただいた案では２つの学校が一緒になるというイメージを掴みづらい。北海道国立大学機構や東海国立大学機構のように、合併される二つの機関に共通する大きな目標を前文に記載してはどうか。現状では業務運営のことしか書かれておらず、それしかメリットがないように読めてしまうかもしれない。特に「７　大学と高専の連携に関する事項」は前文にもってくる方がわかりやすいと思う。現行の目標に軽微な変更を加えるという点は理解する。高専部分の目標について意見はない。

（委員）私も外大と高専の連携によるアピールを前文の目標として書いてもいいのではないかと思う。外大と高専の教育目標が全く違うのは理解できるが、地域貢献・大学ブランドの項目は共通の項目として打ち出せるのではないか。

（委員）どのようなシナジー効果を発揮するかが主眼と考えられる。目標に具体的な内容を盛り込むことでエンジンをかける効果もあるが、連携したプログラムについて記載するのはどうか。

（委員）神戸高専の卒業生である、東京工業大学の益学長の高専に関するインタビュー記事について共有したい。高専教育のあり方について非常に示唆に富んだ内容だった。来年の 60 周年記念として講演してもらいたいと考えている。文科省の施策で「英語」「データサイエンス」「金融」「地域連携プラットフォーム」の 4 つの方向性が示されている。英語は外大、データサイエンスは高専とのシナジー効果が期待できるはずだ。「金融」は金融庁が金融教育に力を入れている。そこでは消費者教育も併せて進めることが重要。神戸市で消費者教育を担っている部署もあるので、外大・高専・神戸市の三位一体で消費者教育が進められるのではないか。それは理想的な形だろう。神戸市が進める大学連携の取組があるが、そこに高専も入ってもらいたい。このような内容も目標に入れることができれば。就職が思うとおりになった学生は、「この大学の卒業生でよかった」と思い、大学のファンになりバックアップしてくれる。キャリア支援に力を入れてもらいたい。中期計画に具体的に入れてもらえたら学生たちとってより魅力的な大学となり得る。

（大学）東工大の益学長は神戸高専の人材育成の一つの成果だろう。

（事務局）兵庫県内の新卒高校生は半数以上が県外へ転出する傾向にあり、京阪神間においても兵庫県の転出超過が目立つ。そのため今年度、地域連携プラットフォームの構築など県内の大学連携に力をいれ、神戸で学び、神戸で働く学生を増やすという取組を進めたい。

（大学）キャリア支援と若い学生に大学のファンになってもらうという部分をどのようにつなぐのか、検討していきたい。

（委員）多様性がポイントで、文理が一緒に取り組む場を作ることで、今までにない発想を生み出す可能性がある。学生にとってのメリットがより明確にできれば良い。例えば科目選択がフレキシブルになるなどは学生にとって魅力的だろう。また、産業界にとっても多様な人材と一緒に課題解決をするような取組は教育効果が高い。その経験は学生にとって就活にも影響を及ぼすだろう。これから IT、データサイエンス、DX を一緒に学べるのは魅力があり大事だと思う。中長期的に社会の変化とともにどのような人材を育成していくか、指針として書けることがあるだろう。

（委員）企業の中期目標を立てる際にまずはビジョンを掲げ、なりたい姿を示すことが多い。「７.大学と高専の連携に関する事項」の部分が一番重要だろう。何かを一緒にするときは数字など効率化を気にしがちで、評価の際も指摘される。だが、それだけでは周り

がついてこず、価値創造が大切である。一緒になることで新しいものが生まれる、わくわくできる、そういう部分で職員・学生にとって期待感をもたせられるのではないか。社内でも文理で一緒に仕事することが増えた。その際、各々の考え方の違いから対立が起こることがある。プロジェクトマネジメント、ファシリテーションの力が非常に求められる。そのようなカリキュラムがあると実践的な力が養える。

（委員）お金の話ことも考えなければならない。財務会計の目標が比較的さらっとしている。夢のある方向性とともに、合理化できる部分もあると思うので、見える化をして目標を立ててもらえるとより良くなる。

（委員）高専の同窓会、寄付の状況について知りたい。

（高専）高専の卒業生は約 11,000 人で 9 割の連絡先を把握している。年報の作成と、理事会・幹事会を行っている。寄付は年報を出した際に募っている。額は大きな大学ほどの額ではない。

（委員）二つの学校が一緒になることのメリット、わくわく感を冒頭に持ってきて、大きな目標とすることはありうると思う。外大の国際性、高専の理系の強みをどのように結び付け、魅力としていくのかが重要。そのメリットを学生に示すことができるか。その魅力は大学ブランドとなり、ひいては国際都市神戸としてのブランド力向上の柱にもなるのではないか。

（事務局）「７.大学と高専の連携に関する事項」の部分を前文にもってきて、わくわく感を未来志向で書きたい。また、その中に産学官金連携についても言及できればと思う。外部資金の調達については、ふるさと納税もある。ふるさと納税を OB に訴求していくということもやっていきたい。

さいごに

（事務局）いただいたご意見をふまえて、中期目標の修正を検討したい。また具体的な取り組み事項に関するご提案は、中期目標と中期計画どちらに落とし込むべきかを検討し、反映させていきたいと考えている。